

国内クレ  
ジット制度

東海4県で、削減した二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量を大企業に買い取ってもらう「国内クレジット制度」の利用が、農業分野でも広がってきた。重油高騰時にヒートポンプなどを導入した施設園芸農家らの関心が高く、重油価格が下がる中、クリーンな暖房にかけた投資を少しでも回収する狙いもある。

制度は、大企業が温室効果ガスの自主削減目標を達成するため、中小企業が省エネ技術で減らしたCO<sub>2</sub>の排出量を買取り取る。2008年秋から始まり12年度まで行う。国内クレジット認証委員会が申請された計画案を審査し承認する仕組みだ。

国の直近データによると、農林水産分野では全国で延べ90件の申請がある

農業利用広がる

CO<sub>2</sub>排出量削減 買い取ります



木質ペレットとボイラーを紹介する小林さん

省エネ導入農家が関心

でも回収するため

一方、御前崎市など同組合の静岡支所内でも、08年秋にヒートポンプを導入した農家5戸が、クレジット制度への申請作業を進める。重油高騰で注目を集めたヒートポンプへの投資を、重油の価格が下がって

が、13件を東海4県が占める。この組合内の農家6戸が8件、木質ペレットへの転換が4件、光源を発光ダイオード(LED)に替え、例が1件と、エネルギー源の転換で減ったCO<sub>2</sub>排出量を出荷する静岡県温室組

同組合の小林裕司代表(60)は、温水ボイラーを月約8万円のリースで導入。A重油が1リットル70〜80円だと木質ペレットは暖房代を削減できる計算だったが、現在は1立方メートル160円台。「費用削減にはならずむしろ赤字。メロンの販売も

静岡県西部で、温室メロンを出荷する静岡県温室組。静岡市でメロンをつくる農家の後退で贈答需要が振

同組合静岡支所の森下登美男支所長は「CO<sub>2</sub>の25%削減をまずは掲げている。農業分野でもこれを進めるには、12年度で終わる国内クレジット制度の後に続く取引の仕組みを早くつくって、生産者側のやる気につなげるべき」と指摘する。